

01 トップメッセージ

02 特集:持続可能な社会の構築

08 ステークホルダーダイアログ
YKKグループと「自然界の共生」

12 YKK MAP:こんなところにもYKK

14 地域社会とともに

16 お客様とともに

18 従業員とともに

22 地球環境とともに

28 YKK精神・経営理念と
YKKグループの経営体制

編集方針

幅広いたくさんの方々はこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分離し発行しています。

Web版もご覧下さい。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2011/contents.html>

また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみ用いて作製しています。不要となった際は、製紙原料になりますので、古紙回収・リサイクルにお出してください。

対象範囲

YKKグループ

(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

対象期間

2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日)

次回発行は2012年6月を予定しています。

技術への更なる挑戦

～企業価値の向上に努め、社会の発展に貢献します

この度の東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

YKKグループは、企業精神である『善の巡環』のもと、『更なるCORPORATE VALUEを求めて』を経営理念に掲げ、「公正」であることをあらゆる経営活動の行動指針として事業活動を行っています。この精神・理念を精神的支柱として社員全員が共有し、中核事業であるファスニング事業と建材事業を、日本を含む世界71カ国／地域で展開しています。

グローバル経営を進めるYKKグループでは、新たな価値の創造によって事業を発展させることに注力しています。市場の要求は年々高まり、ファスニング事業では多様化するニーズへの個別対応、建材事業では窓分野・ファサード（高層建築物外装）分野などにおいて高度な技術力が求められます。この技術力はYKKグループの事業の根幹であります。自らが変革し技術力の更なる強化を推し進めることにより、新しい価値を導き出すモノづくりに挑戦してまいります。

また、今回の震災と原発事故で、東電管内以外でも節電が求められています。そんな状況下では、日本人のライフスタイルも当然変わっていくと思います。我慢と言う選択肢もあると思いますが、新しい知恵とノウハウを使って、快適な生活をどう維持・発展させていくのかという課題にも対応しなければなりません。私どもは、環境負荷の低減を徹底して進めています。事業活動・提供する商品は、あらゆる生物、自然に対してやさしく、受け入れられるものでありたいと願っています。この環境への対応を経営の基軸に位置づけ、社会の持続的発展に貢献してまいります。

2011年7月

YKK株式会社
代表取締役会長 CEO

吉田 忠裕




特集：持続可能な社会の構築



Nature





森や川、海など、
自然界との共生範囲を広げ
YKKグループは持続可能な社会を
目指していきます。

&



Humanity

「善の巡環」を
グローバルに展開

1959年以来、世界が私たちの舞台です。
「世界6極地域体制」のもと、
71カ国／地域で事業を展開しています。

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利潤を社会と分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKK創業者、吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、この点について最大の関心を払い、「善の巡環」として常に事業活動の基本としてきました。私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神「善の巡環」—他人の利益を図らずして自らの繁栄はない—としています。

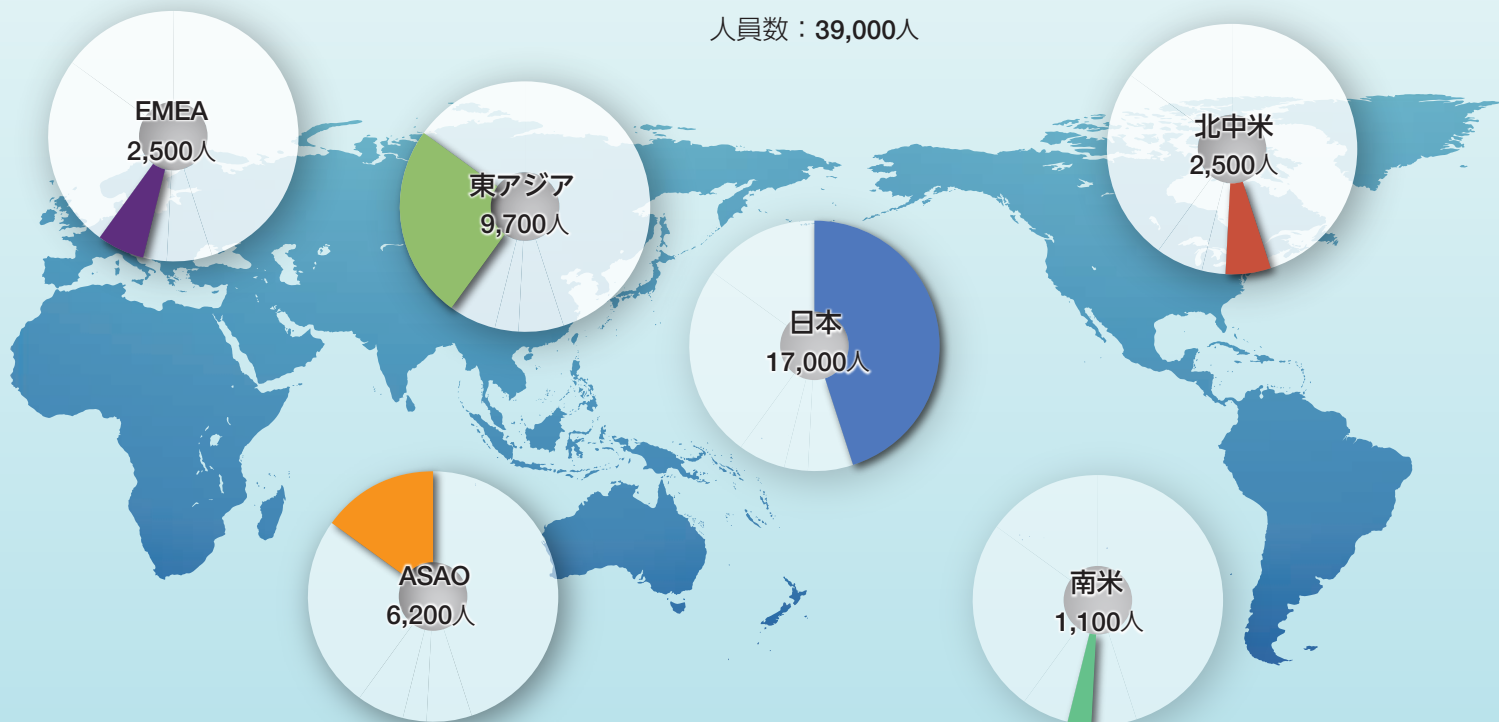
YKKグループは、この「善の巡環」に基づき「真に国際的な会社」の実現に向けた事業基盤の拡大を目指しています。現在、全世界で71カ国／地域に事業拠点をもち、事業エリアを、北中米、南米、EMEA(ヨーロッパ・中東・アフリカ)、東アジア、ASAO(アセアン・南アジア・オセアニア)、日本の6つのブロックに分け、地域ごとの特性を活かした「世界6極地域体制」で事業をグローバルに展開しています。

- 1 YKK 50ビル アトリウム内にあるYKKを築いた創業時の5人(吉田忠雄・吉田久政・吉田久松・吉川喜一・高橋利雄)の功績を後世に伝えるために建てられた像
- 2 創業者 吉田忠雄直筆の「善の巡環」
- 3 YKKグループ初の現地法人YKKニュージーランド社を設立(1959年)
- 4 YKK農牧社(ブラジル)のコーヒー豆の収穫



「世界6極地域体制」

人員数：39,000人



EMEA: ヨーロッパ・中東・アフリカ
ASAO: アセアン・南アジア・オセアニア

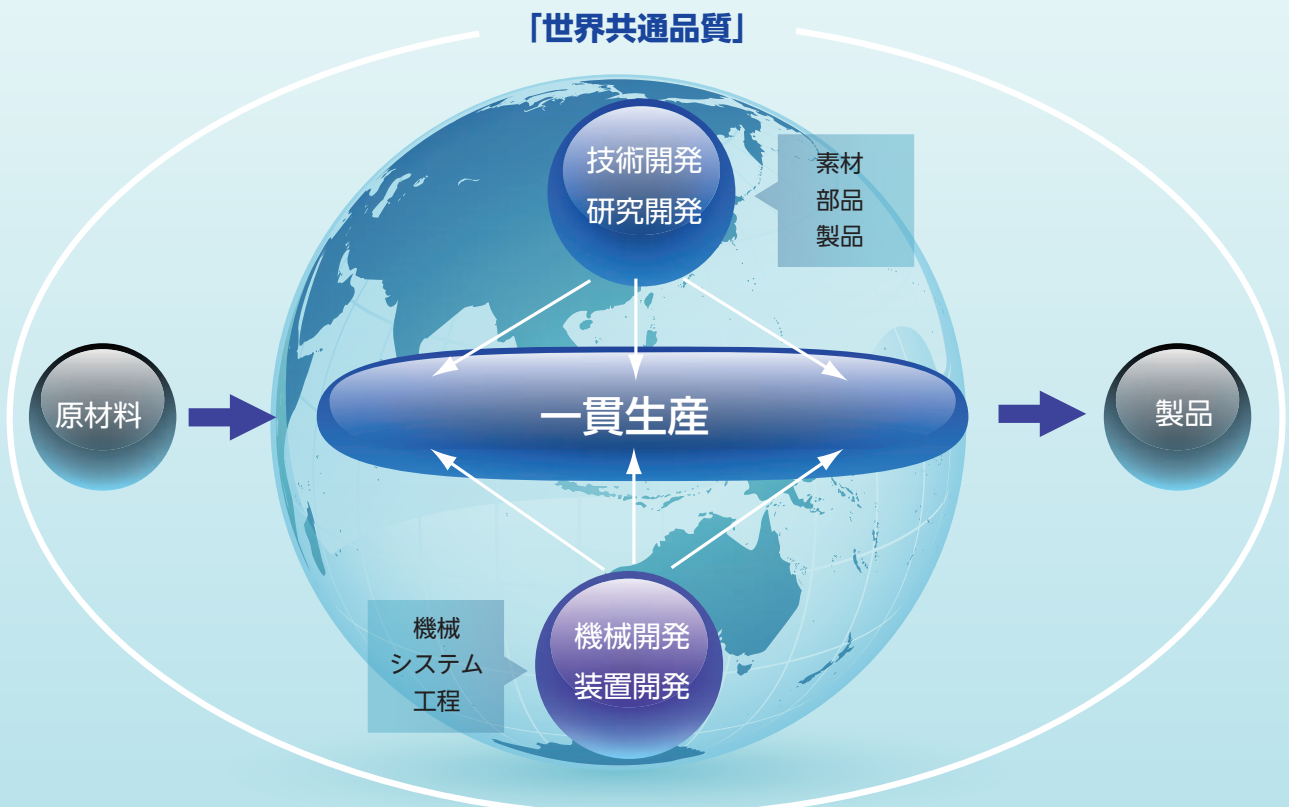
「世界共通品質」のモノづくり

低炭素・循環型社会の実現に寄与し
YKKグループならではの
「一貫生産体制」による
モノづくりにこだわっています。

1934年、前身となるサンエス商会在東京日本橋に設立されて以来、YKKグループは常に品質の向上に取り組んできました。高品質ファスナーの製造にいち早く取り組み、紡績やアルミ合金、製造機械にいたるすべてを自社内で調達する「一貫生産体制」を確立するなど、創業以来の品質への情熱が今もYKKグループのモノづくりに息づいています。

ここで培われた独自の技術力を活かし、YKKグループは事業活動のすべての分野において環境政策を推進しています。環境に配慮した商品・サービスの開発・提供のためのビジョンを設定、金属・繊維・樹脂における素材研究などの要素技術や、環境対応型リサイクル技術、物流、販売および製造システムの構築により、世界のどこでも安定して、環境に優しく高品質な製品を供給できる「世界共通品質」を確立していきます。

- ① 1万錠の紡績機を持つ紡績工場(ファスニング事業)
- ② アルミ鋳造工程(建材事業)
- ③ 機械保全部門で「とやまの名匠」に認定された小山忠志
- ④ 止水ファスナーを活用した緊急災害用エアテント「エマージェンシーユニット」
- ⑤ 省エネに貢献するYKK APの窓事業ブランドシリーズ「APW330」「APW310」



➡ モノづくりのプロセス
→ モノづくりを支えるプロセス

いつの時代も

地域社会とともに

「善の巡環」の精神を根底に
さまざまな社会貢献活動へ
積極的に取り組んでいます。

YKKグループは、あらゆる経営活動において「公正」を価値基準とし、お客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びをもって働ける会社でありたいと考えています。YKKグループの企業活動の根底には、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という「善の巡環」の精神が貫かれています。インドでは、縫製技術やコンピューター技能の習得支援を通じた女性の社会進出支援を行うなど、本業を活かした社会貢献から、本来の事業活動から離れ、教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。YKKグループがいつの時代も地域に愛され、良き企業市民として社会に愛される企業であり続けるために新しい文化の創造に貢献できるような活動をし、地道に行っていきたいと考えています。

YKKグループの主な社会貢献活動

- 1 地域内山林の清掃活動(韓国)
- 2 社有地の畑で保育園児(227名)による芋掘り体験(熊本県八代市)
- 3 孤児を対象とした奨学金援助(インドネシア)
- 4 無料医療相談(バングラデシュ)
- 5 女性を対象とした社会訓練・職業訓練センター(インド2008年から開所)



地域の幼稚園児を対象とした
環境授業(ブラジル)

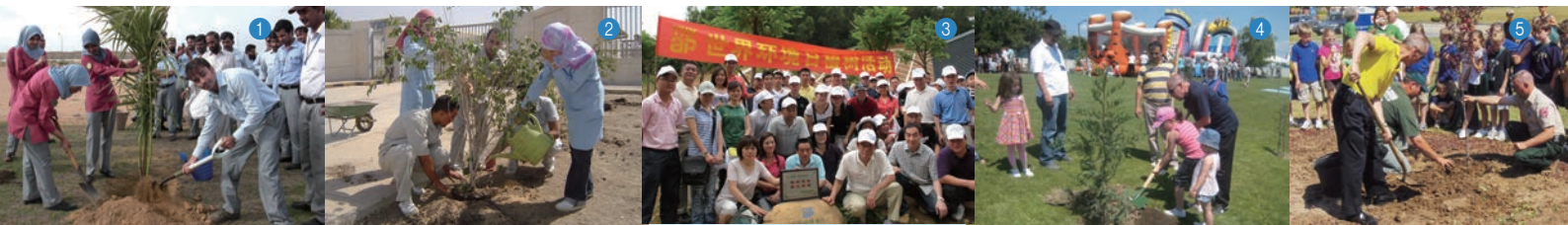
YKKグループは
事業活動の中でより深く生物多様性に関わり
持続可能な社会の構築を目指しています。

「自然界との共生」を 通じた持続可能な 社会の構築

黒部事業所は1955年の稼働開始以来、YKKグループの中核拠点として大きな役割を担ってきました。事業所が存在する黒部川下流域は、日本最大の扇状地で、黒部川をはじめとした大小さまざまな河川を有しています。扇状地は湧水や伏流水などのさまざまな水の恵みを生み出し、その恩恵のもとYKKグループは事業の発展を果たしてきました。グローバル化の急伸で、世界各地の地域社会・自然環境との共生が社会的課題となっています。YKKグループは持続可能な社会の構築に向け、事業活動と自然界の共生範囲を広げた「自然界との共生」が絶対条件と考えています。6月5日の世界環境デーを中心に、国内外のYKKグループで一緒に植樹を実施することを目的とした「YKK Group Tree Planting Day」や、YKKセンターパーク内での「ふるさとの森」づくりなど「善の循環」を根幹に、より深く事業活動の中で生物多様性に関わり、持続可能な社会の構築を目指していきます。

YKKグループとして世界各地で
YKK Group Tree Planting Dayを開催

- ① パキスタン
- ② エジプト
- ③ 深州(中国)
- ④ トルコ
- ⑤ アメリカ



一般開放されているYKKセンターパーク(黒部市)



2010年よりYKKグループでは年1回ステークホルダーダイアログを開催しています。さまざまな分野のステークホルダーの皆様からご意見をお伺いし、YKKグループの社会・環境活動に役立てています。第2回目は、2011年4月13日に黒部事業所にて開催いたしました。富山県立大学 九里 徳泰先生をファシリテーターに、2010年にいただいたご意見に対する活動報告と、YKKグループが持続可能な社会を目指すための4つの取り組みについて、ご意見をいただきました。

2010年ダイアログでの ご意見に対する活動報告

2010年にいただいたご意見

環境負荷低減活動の課題	CSR 経営の方向性や課題
海外を含めたコンプライアンスの向上	社員の意識や倫理観の向上
地下水の使用による近隣地域への影響	植樹の意味と最終目標
低炭素社会への対応	商品を通じた社会的責任

海外を含めたコンプライアンスの向上では、各国・地域の体制・法規制を調査し、それに基づいてYKKグループ独自のガイドラインを設定しました。同時に各拠点の責任を明確化し、域内での遵法性をチェックできる体制を構築しました。海外での監査も引き続き実施し、昨年はトルコ、中国、インドネシア、北中米で遵法性をチェックしています。

YKKグループと
「自然界の共生」
ステークホルダーの皆様から
いただいたご意見を
今後の活動に活かしていきます。

左から

自治体：中谷 松憲 氏(黒部市 市民生活部 市民環境課 課長補佐・環境係長)

取引先：平野 明 氏(平野工務店株式会社 代表取締役)

消費者：稲垣 里佳 氏(富山県地球温暖化防止活動推進員)

ナチュラリスト：松木 紀久代 氏(黒部峡谷ナチュラリスト研究会事務局長)

地域住民：大上戸 久雄 氏(村椿自治振興会 副会長)

学生：松岡 志温 氏(富山県立大学短期大学部専攻科環境システム専攻2年)

ファシリテーター：九里 徳泰 氏(富山県立大学工学部環境工学科教授)



地下水の使用による地域への影響について、循環利用など地下水の使用量削減とともに、2010年度は黒部川扇状地の井戸の塩水化調査を行い、地下水利用の影響を確認しました。YKKが利用している地下水流域に塩水化は見られませんでした。

低炭素社会の実現に向けては、生産設備や空調、照明の高効率化などを進め、スギの木14.5万本が年間に吸収するCO₂を削減できました。また、CO₂換算は、2010年から第三者検証を導入し、国際的に認められたルールのもと、営業所も含めた300拠点すべてのCO₂の排出量を算出しています。第三者検証には排出源や燃料種ごとのデータが得られるという利点もあり、今後のCO₂削減計画立案に役立てる考えです。

社員の意識や倫理観の向上では、YKKグループではグリーン大作戦と称し、工場および公共施設周辺の清掃を行い、美観やモラルの向上に貢献しています。また、通勤時の右側歩行を徹底するとともに、事業別の時差出勤も実施し、工場周辺の渋滞緩和に成果が表れたと認識しています。東日本大震災に対しては、多くの社員が労働組合の義援金募集に協力しました。

2008年からグループ全体で行っている「YKK Group Tree Planting Day」も、2011年度からは各国・地域に合った植物を複数種類選定して植樹し、生態系を尊重し緑化を進めます。センターパークでは黒部川扇状地の生態系を再現・保存するため、黒部川水系の生態系調査や水中の常時監視、水中映像の公開などを計画中です。

最後に、商品を通した社会的責任に関して、建材ではガラスとサッシを一体化し、性能と品質を保証する商品「APW」を開発しました。10年保証が特徴となっています。ファスニングでは、アウトドア用品で有名なパタゴニアと商品開発のパートナーシップを結びました。再生PETで作られたリサイクルファスナー「NATULON®」を提供し、2010年にはパタゴニアの主要商品すべてがNATULON®に置き換えられています。

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み① 「善の巡環」とグローバル展開

九里先生(以下先生):YKKグループは「善の巡環」を根幹にグローバル展開を行っています。グローバルな活動に対するYKKグループへの期待など、今後の更なる取り組みについてご意見をいただければと思います。

稲垣(消費者):日本以外の地域に進出する際、地域の雇用拡大など、お互い同等の利益を得られるよう配慮いただくとともに、日本の環境保全や品質に関する事例を海外にどんどん広めていただきたいと思っています。

YKK:雇用面では上級職の現地人化が進んでいますし、女性がマネージメントに参画する例も増えています。

先生:注意が必要なのは児童労働です。1997年のN社の事例では世界中で不買運動が起きました。YKKはチェック機能をお持ちでしょうか。

YKK:採用時に履歴書と卒業証明書を提出させるなど、児童労働をさせないよう制度面から徹底しています。

平野(取引先):木の質感が美しく、耐久性に優れた製品「リウッド」は、世界標準となるポテンシャルがあると考えています。アルミの耐火性能の追求など、安全、安心に強みのある新素材の研究開発にも期待しています。

松岡(学生):アルミサッシのような自社製品のリサイクルの状況を教えてください。

先生:APWのようにシリアルナンバーのついている自社製品を回収すれば、品質が均一のリサイクル材が確保できますね。そういった計画はありますか？

YKK:将来的にはそれが目標です。また、自社製品ではありませんが、リサイクルアルミは、精錬に要する電力量が新規の約3%程度ですむので、利用を拡大しています。

先生:自社製品のリサイクルは地域社会や地球生態系との共存にも関わってくる課題ですから、技術革新や企業努力を期待します。

各拠点がお互いの活動を参考にできるような情報共有も大切ですね。コンプライアンスはただ単に法律を守るだけでなく、企業倫理がその基盤になければならないものですが、YKKには「善の巡環」という大きな倫理基盤があって、それを全世界の事業所に展開しようと強い意思を感じました。ただし文化の違いや距離感から、その意思が薄れていく可能性は充分あります。評価体制を作ることもお考えください。

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み② 世界共通品質

先生:YKKは、伝統的に自社内ですべて調達する一貫生産体制のモノづくりを行ってきました。また、すべての事業分野において環境政策を推進し、環境に優しく高品質な製品を供給できる「世界共通品質」を掲げています。

大上戸(地域住民):5年ほど前、上海ファスナー工場を見学しました。あの機械はどこで作られているのですか？

YKK:ファスナーや建材をつくる機械の開発から製造、またその機械の部品、消耗品の製造までグループ内で一貫して製造しています。世界同一品質で提供するために、同じ機械、同じ材料でつくれる体制が必須だと考えています。

平野(取引先):モノづくりは人づくりでもあると思います。世界各国で言葉の壁を乗り越えながら、モノづくりへの情熱や、やりがい伝えるために、どのような取り組みをされていますか。

ステークホルダーダイアログ

YKK:どんなに性能の高い機械でも、それを活かすのは人間です。そこで新しい機械を稼働させるときは、必ず時間をかけて研修を行っています。

松岡(学生):世界共通品質を実現するため、「善の巡環」を取り込んだ人材教育システムが行われていると聞き、素晴らしいと思いました。

松木(ナチュラリスト):これからの高齢化社会には、誰もが安心して使えるユニバーサルデザインを意識した製品が求められると思います。今回の震災による電力供給の問題は、太陽光発電などへの転換を考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

先生:ユニバーサルデザインの根本に立ち返って、世界共通化ができるかどうか、ぜひチャレンジをしていただきたいと思います。

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み③ 地域社会とともに

先生:YKKグループ経営理念にある「公正」を強く意識し、本業を活かした社会貢献から、教育や地域の活性化、国際交流のバックアップなど、さまざまな活動が行われています。なかでも地域の人や女性が働きやすい職場づくりへの取り組みが目立ちますね。

YKK:韓国とインドでは事業所に託児所を設けています。また、インドでは職業訓練センターで就業能力の向上を図っています。診療所に医師、看護師が常駐しているほか、医師をコミュニティに派遣して、そこで診察や治療を行うことも活動のひとつです。

中谷(自治体):黒部市にとってYKKの存在はやはり大きなものがあります。地域活性化に向けて、例えば海外での社会貢献の事例で黒部市にも応用できるものがあれば、ぜひ教えていただきたいです。

YKK:お国柄もあり、すべて応用・適用できるかは難しいですが、黒部にあったものをご提案したいと思います。



大上戸(地域住民):通勤時の右側通行にご協力いただき感謝しています。また、時差出勤を導入されたことで、近隣の朝の渋滞が大きく緩和されました。子どもたちの通学路も安全が確保され、大変良いことだと思っています。

先生:そうですね。地域の安全を守るため今後も真摯に考えていただきたい課題です。さらに言えば、低炭素社会へのアプローチとして、一人ひとりがガソリン車で通勤することも見直すべき時が来ているようにも思います。

稲垣(消費者):地域のクリーン作戦に社員の方が多数参加されたり、個人で環境に関する委員会のメンバーに入っておられたり、素晴らしいと思うのですが、それを奨励する社内の制度があればなお良いと思います。YKKさんは、事業所ごとに安全衛生や環境保全のスペシャリストがそろっておられるので、ぜひそういう能力を地域に活かしていただければと思います。

松木(ナチュラリスト):夏休みの子ども環境教室に参加した子どもたちと接するなかで気づいたのは、YKKが何をしている会社かわからない子が増えているということでした。地域の子どもたちを招いて工場見学を実施したり、ビオトープを活用した教育プログラムなども提供していただけたらと思います。

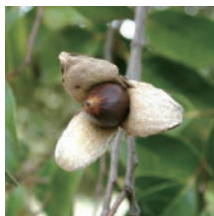
先生:地域の方々といかにコミュニケーションをとり、開かれた企業として見ていただく、関わっていただくかが大事です。協力の精神で近隣住民とともに地域を活性化していくことは企業の大きな使命だと思いますので、ぜひ今後も注力をお願いします。

「ふるさとの森」で育成されている植物

ふるさとの森では樹種(潜在植生)約20種類、2万本を苗木から育成し、社員だけでなく地域の方々にもご協力いただきながら植樹をしています。



創業100年の2034年ごろのYKKセンターパーク予想図



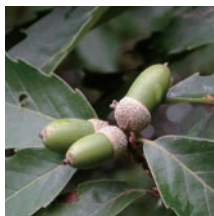
サダジイ



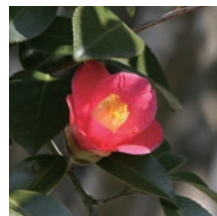
タブノキ



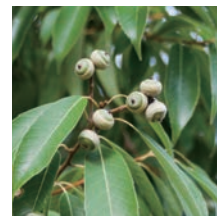
ハクウンボク



コナラ



ヤブツバキ



シラカシ

持続可能な社会を目指すための4つの取り組み④

自然界との共生

先生:自然との共生は、低炭素社会、循環型社会と並ぶ、とても重要な課題です。YKKグループではビオトープによって自然を再生する試みや、グローバルな植林に取り組んでいるということですが、この観点からのご質問やご意見をお願いします。

松岡(学生):ビオトープについて、川の上流からビオトープへ、また、さらにその下流域へ、トータルな生態系デザインを考えていただきたいと思っています。

先生:人と自然の共存を学ぶESD (Education for Sustainable Development) というアプローチがあります。センターパークはそうした発想を展開するのに最適な場所です。子どもたちが体験し、学べる場をぜひ実現してください。

稲垣(消費者):私は黒部の出身なのですが、このセンターパークが誰でも自由に行き来できるということを知りませんでした。せっかくの施設なので、ぜひ市民に積極的にPRしていただいて、もっと活用できるようにされてはいいかかと思えます。

大上戸(地域住民):私どもは用水路の掃除、泥上げを3月末に、また7月早々には草刈りをやっています。同じ流域に住むものとして、川の周辺の清掃にも共同で対応していただきたい。

先生:地域の方々と連携して、最適な方法をご検討いただければと思います。

松木(ナチュラリスト):今、扇状地の地下水源の量が減少していると聞いています。行政や大学などと協力して、地下水量を把握する調査もしていただけないでしょうか。

平野(取引先):工業用水のくみ上げ量が最も多かった時期から比べると3~4割減っているようですが、今一つ努力をしていただいて、地下水利用の一層の削減を図っていただきたいと思えます。

先生:自然界との共生を考える上でビオトープは重要な役割を果たすと思います。今後は生態系を考慮した自然環境づくりを行いながら、それを地域の環境や子どもたちの教育にどう役立てていくかが課題ですね。地域との連携強化に期待しています。

平野(取引先):東日本大震災の影響は大変大きいですが、地域と手をとりながら、全社一丸となつてがんばってください。

先生:震災の復興に力を尽くし、ぜひその活動をプレスリリースを含めて社会に積極的に発信していただきたいと思えます。今日は皆さんご協力ありがとうございました。

今回のご指摘・ご意見

	ご指摘・ご意見
①「善の巡環」とグローバル展開	・倫理なくしてコンプライアンス無し ・モノづくり=人づくり
②世界共通品質	・感性工学、ユニバーサルデザインの発想 ・化石燃料に頼らない、新エネへの対応
③地域社会とともに	・協働のベストプラクティス提案 ・個人の能力の社会への提供
④自然界との共生	・地域の生態系の中でのビオトープ作り(ESDの活用) ・黒部川扇状地全体を見据えた、地下水利用調査(行政・大学との協力)

ステークホルダーダイアログを通して

本年は第2回が開催されました。このダイアログの場は、企業の影響を直接・間接に受ける関係者と企業が真摯に対話し、協働を通じて次なる社会を一緒に考える場です。YKKグループがこのような対話の場を持ったことを本年も評価したいと思います。さて、昨年指摘された環境負荷低減の課題、CSR経営の方向性・課題に対して、YKKグループから現状報告があり、この1年間YKKグループで行われた活動は明確に前進があることが認められました。本年は、グローバル展開、低炭素・循環型社会でのモノづくり、地域との協働、生物多様性といった課題項目が指摘されました。これを受けて、今後ともYKKグループが持続可能な社会づくりを目指し、更なるステークホルダーとの連携強化をすることを期待しています。

富山県立大学工学部環境工学科教授
九里 徳泰

ビオトープ観察会

古御堂エリアに二つ所在するビオトープ「ふるさとの水辺」は黒部川扇状地の湧水池です。2008年度より水生動植物を植栽・放流し、現在、植栽状況や生育状況を地元の専門家とともに定期的に視察し、アドバイスを受けています。2011年4月13日、ステークホルダーダイアログに先立ち、ダイアログ出席者の方々とともに、ビオトープの観察会が行われました。水生生物調査ではメダカとトミヨの生息を確認しました。トミヨはきれいな冷水を好み、水質の変化や濁水の影響を受けやすい淡水魚です。また、夏場にはアユが近隣の水路から遡上していることが確認されています。



トミヨ(トゲウオ科)



ビオトープでの水生生物の生息調査・観察(4月13日)



① 宇宙服

宇宙服には、YKKの気密ファスナー（空気を通さないファスナー）が使われています。



② 青函トンネル

内部に入り込む海水を排出する漏水用トイには止水ファスナーが取り付けられ、トイの清掃に役立っています。



③ カーテンウォール

ビル建築に求められる高い意匠性や遮光・断熱性などのファサード表現と機能性を兼ね備えています。



④ レストラン

イタリアンレストラン「アル・セッティモ・チエロ」では美しい夜景とおいしいお料理でお客様をお迎えます。



⑤ オイルフェンス

流出した原油の拡散を食い止めるオイルフェンスをファスナーでつなげれば、広い範囲での拡散防止が可能となります。



⑥ ダイビングスーツ

スキューバダイビング用ドライスーツにYKKの水を通さないファスナーが役立てられています。



⑦ 明石海峡大橋

排水溝に取りつけられたファスナーで、排水溝のゴミ処理を簡単に。環境を守るお手伝いをしています。



⑧ 巨大パッチワークキルト

「世界キルトカーニバル名古屋2005」ではファスナーがキルトをつなぎ超巨大サイズを完成させました。



⑨ エマージェンシーユニット

YKK APエマージェンシーユニットは、ファスナーでテントをつないで、大きな部屋をつくることができます。



⑩ コーヒー

YKKの農場で育てられたコーヒー豆は、「カフェ ボンフィーノ」ブランドで販売されています。



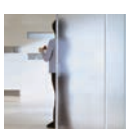
⑪ おむつ

樹脂の流入による連続射出技術を用い、肌にあたっても痛くない赤ちゃん用おむつの面ファスナーを開発しました。



⑫ ソフトタンク

YKKのファスナー付ソフトタンクは液体（ミルクなど）がこぼれる心配がなく、使用後は小さく折りたためます。



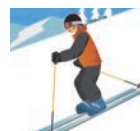
⑬ インテリア

室内ドア、フローリング、階段、パーティションなどにYKK APの高い技術力、デザイン力が活かされています。

住宅の窓から宇宙服のファスナーまで、



さまざまな生活の中でYKKの商品が活躍しています



14 防寒服

冷たい空気や水滴を防ぐYKKの止水ファスナーは、登山やスキー用の衣料や小物に活用されています。



15 消防服

火のすぐ近くで活躍する消防士さん。その消防服にも、特殊な素材で作られたファスナーが使われています。



16 バグパイプ

空気をもらさないバグパイプのファスナーは、お手入れの便利さと、美しい音色を同時に可能にしています。



17 H-IIIB ロケット

H-IIIB ロケットのサーマルカーテンの接続に、燃えにくい特殊なYKKファスナーが使われています。



18 断熱窓

高い断熱性と優れた意匠性を兼ね備えた窓は、省エネルギーに貢献し、快適な住まいづくりをお手伝いします。



19 住まいの安心

ボタン錠や電気錠システム、窓シャッターなどYKK APIは安全で安心な住まいづくりをサポートしています。



20 オーニング

日差しを調節するオーニングは、カフェのテラス席や住宅の窓辺用まで快適な空間づくりに役立ちます。



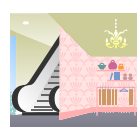
21 エクステリア

木粉とプラスチックが主原料の「リウッド」を活かしたエクステリア建材。YKK AP独自の素材で、リサイクルも可能です。



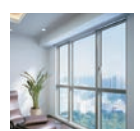
22 ギター

良質な材料で作られたYKKのワイヤーは、ギターのフレットとして世界中の有名メーカーに採用されています。



23 耐火スクリーン

耐火スクリーン用難燃ファスナーは、1000℃以上の熱に耐えるステンレス糸でテープ部分が作られています。



24 マンション(窓)

YKK APIは使いやすさと安全性、防犯性などマンションに必要な要素にこだわった設計をしています。



25 アルミニウムパーツ

バンパーやラジエーター、エアコンなどの自動車部品素材にYKK APのアルミニウム技術が活躍しています。



26 景観商品

歩道や公園などのベンチや街灯、フェンスなどにもYKK APの技術力やデザイン力が活かされています。



27 カラス対策用ゴミ収集ネット

柔軟で開閉が簡単、大きいサイズのファスナーが、街の美観を保つネットの使いやすさに一役買っています。

いつの時代も愛される企業を目指します

YKKグループは「善の巡環」の精神のもと、いつの時代も地域に信頼され、社会に愛される企業でありつづけるために、さまざまな社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

教育・スポーツ支援

「全日本少年サッカー大会」は、日本の将来を担う少年たちがサッカーを通じて身体を鍛え、フェアプレーの精神を養い、正しく強くまた想像力豊かな人間の育成を目指して1977年より開催されている大会です。YKKでは、1980年以来より同大会をサポートしています。



東京・西が丘サッカー場で開催された決勝戦 (2010年8月7日)



イラプアト エコロジカルパーク(メキシコ)に6万ペソ(約40万円)を寄付。環境教室に参加した子どもたちにTシャツを贈呈しました(YMEX社)



貧困家庭の女性を対象にした教育支援。6カ月間無償で縫製・語学・ITなどの専門教育を提供しています(インド社)



地元の28校の小学生を対象に環境リサイクルコンテストを開催しました。学校で発生する廃棄物からつくった作品を出品してもらい、優秀作品をYKKファミリーデーの会場で、表彰しました(フィリピン社)



「JUST FOR KICKS YKKキッズ・フットボール・クリニック2010」を開催しました(バン格拉デシュ社:2010年5月6日～8日)

● A P 蘇州社の地域貢献活動

AP蘇州社では、地元学校や障がい者の方が通う学校への教育支援を行っています。

2006年からの唯亭学校(蘇州)の環境教育支援では、植樹や環境教室、スポーツ大会、環境施設の社会科見学、環境作文の募集などの活動を行っています。バザーにも参加しており、社員から集められた寄付品は2006年から延べ1,733個、バザー参加は9回となりました。

2010年は蘇州工業園区博愛学校(知的障がい専門学校)へのボランティア訪問やクリスマスパーティーの開催を行いました。さらに電気給湯器の寄贈や、水治療室への商品(窓)の提供と費用の一部負担による改装工事支援を行いました。



キンモクセイの植樹



小学生向け環境教室



電気給湯器の寄贈



水治療室へのA P 蘇州社の「窓」を提供

清掃活動



2010年10月に開催された河川クリーン活動。
従業員100名が参加しました(USA社 (Macon))



河川清掃活動には工場長を含め30名の従業員が参加しました
(韓国社)

医療支援



乳がん募金キャンペーン「第17回レブロンウォーク」に参加しました
(USA社 (Anaheim): 2010年5月8日)



近隣住民を対象とした健康診断を実施しています(インドネシア社)



シータワカ輸出加工地区(SPEZ)での献血活動。
近隣工場の従業員、SPEZの役職員も参加しています
(スリランカ社)

災害支援

YKKグループでは、パキスタンで発生した洪水の被災者への救済や被災地の復興に役立てていただくために、義援金としてUS\$3万(約260万円)を、YKKホールディング・アジア社より国際赤十字に寄付いたしました。

東日本大震災の被災地への支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、YKKグループでは、被災者の皆様や被災地の復興支援として、日本赤十字社を通じ義援金1億円を寄付いたしました。また、被災された皆様の生活基盤を確保するため、水・食料・衛生用品などが不足する被災地や避難所への救援物資の提供を行いました。今後も各地の対策



大崎市への救援物資発送
(2011年3月15日)

本部と連携を取りながら、継続的な支援活動を展開する予定です。

救援物資



緊急災害用仮設ユニット「QS72」(第一建設(株)製)
3月23日・3月29日、宮城県石巻市 石巻赤十字病院に100ユニット寄贈

●ウォール・ペイント・ワークショップの開催

YKKグループが提供した緊急災害用仮設ユニット「QS72」に、被災地の子どもたちと被災者支援活動「Artists' Action for JAPAN」のアーティストがペイントを施すワークショップを開催しました。ペイントされた「QS72」は、石巻赤十字病院の小児科前に2ユニット設置され、「みんなの図書館」、「お絵描き部屋」として活用し被災地の子どもたちの精神的な支援に繋がっています。



ワークショップで被災地の子どもたちにペイントされる「QS72」
(2011年6月15日)

お客様の立場に立った、モノづくり

YKKグループでは、商品をご使用いただくお客様の立場に立ち、お客様との信頼を大切に、「世界共通品質」のモノづくりを行っています。自社の改善活動に加え、お客様との協働による品質の向上に取り組んでいます。

お客様とのコミュニケーション活動

YKKグループでは、世界各地のお客様とのコミュニケーション活動を通じて、お客様のニーズに即した商品を提供しています。

ファスニング事業では、縫製工場のお客様向け工場見学の開催やセミナーなど、さまざまな取り組みを通して

品質や環境保全面での相互理解を深めています。アメリカではUSA社(Macon)が、工場見学や、顧客満足度調査などを実施しています。中国地域でもYKKグループの取り組みにご理解いただくため、お客様との交流を進めています。深圳社では2010年7月から9月の2カ月間、5社のお客様にご訪問をいただきました。

●ゴールドウィン社がYKKの環境配慮型ファスナー NATULON® を採用

国内大手スポーツアパレルメーカー、ゴールドウィン社は同社が推進する循環型リサイクルシステムにNATULON®の採用を決定しました。

YKKでは以前より積極的に環境対応商品への取り組みを進めており、今回「製品を通じて地球環境に配慮し、持続可能なモノづくりを目指す」という両社の理念が一致し、2011年春夏物から全面的にNATULON®への切替を開始しています。この取り組みによって、ゴールドウィン社は生地だけでなく、ファスナーともに環境配慮型素材を使い、使用後に回収、ケミカルリサイクル技術で再生された素材を一部生地やNATULON®に使用するという循環型システムを構築しています。2010年8月には合同記者会見を開き、業界、消費者にエコの取り組みを両社でアピールしました。現在、THE NORTH FACE、HELLY HANSEN、ellesse、canterburyの4ブランドの10%が該当し、今後はゴールドウィン社の全ブランドの50%を対象にしていく予定です。

YKKは循環型社会構築に今後も部材メーカーとして積極的に参画し、ブランド価値向上につなげるとともに、商品を通じた地球環境保全に貢献していきます。

NATULON®とは

NATULON®はリサイクル技術で再生された省資源の循環型商品です。YKKではこのNATULON®をさまざまなファスニング商品として展開しています。



ゴールドウィン社との共同記者会見(2010年8月)



NATULON®採用商品。タグにNATULON®を明記



生活者の視点に立った商品開発

YKK AP(株)では、誰にでも安全で使いやすい商品を開発するという視点から、生活者検証による商品開発を行っています。これは、生活者モニターの方に日常生活に近い状態の中で商品を使っただきながら気づいたことや感想をいただき、これらの観察結果を蓄積。そこから潜在ニーズを発見することで、商品をさらに使いやすく進化させ、安心で快適な暮らしを形にしてお客様に提供していくというものです。生活者検証は、「価値検証センター」によって実施されています。

「製品安全対策優良企業 経済産業大臣賞」受賞

経済産業省が主催する「製品安全対策優良企業表彰」は、製品安全に積極的に取り組んでいる製造事業者、輸入事業者、小売販売事業者を毎年表彰するものです。本表彰では、各企業が製造・輸入・販売している製品自体の安全性について評価するのではなく、企業全体の製品

■価値検証センターでの活動



幅広い年代の生活者の日常的な使い方をモニタリング



実環境の再現で、耐久性を予測した製品開発とリスクを検証



施工業者向け事故防止研修の実施

安全活動について評価します。

このたびYKK AP(株)は大企業 製造・輸入事業者部門で経済産業大臣賞を受賞しました。受賞の理由は以下の通りです。

●ユーザーの生活行動を踏まえた製品開発の実施

専用の検証施設において、子どもから高齢者まで幅広いユーザーの日常的な使い方をモニタリングし、誤使用や誤操作を含め、多様な生活状況に対応した製品の開発に反映しています。

●製品の実環境試験によるリスク検証

専用の検証装置を用い、製品に対する実環境(暴風雨、寒暑、輸送の衝撃、取付けなど)を再現。

製品の耐久性を予測した製品開発やリスク検証を行っています。

●施工業者の意識啓発による事故防止

施工業者向けに、実際の建築現場を想定した環境での研修が可能な施設を全国(11カ所)に設置し、正しい組立・搬入・施工・調整などを研修しています。

海外での取り組み

●インド社：工場見学、お客様工場訪問

インド社では工場見学やセミナーなどを通じYKK精神と経営理念に基づく社会・環境保全活動や品質、サービス改善活動について、お客様や関連団体のご理解をいただけるよう努めています。



お客様向け工場見学



YKKの取り組みを紹介

●ベトナム社：お客様先での品質管理セミナー開催

ベトナム社では、お客様の工場に出向き、品質管理セミナーを開催しています。2010年は5回開催しました。



ハノイでの開催



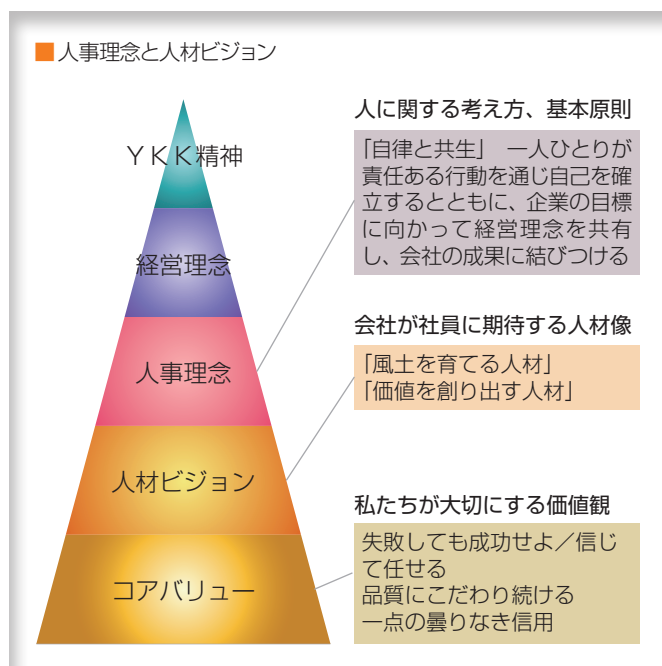
タイビンでの開催

一人ひとりが力を発揮できる仕組みづくり

YKKグループでは、「自律と共生」をベースに年齢や性別、学歴などにとらわれず、実力や意欲に応じて任された役割において、社員一人ひとりが十分に力を発揮できる制度や環境づくりを進めています。

YKKグループの人事制度

人事制度は、人事理念「自律と共生」をベースに、役割を軸とした成果・実力主義の考え方で設計されています。役割の特性や期待像の違いによって4つの職群が設定され、評価・処遇の仕組みは、それぞれの職群に合った公正なものとなっています。評価は、社員の中長期的な成長を重視し、生み出された「成果」と役割を果たすための「役割行動」、会社の理念に基づく「価値行動」の3項目で行います。また、社員のキャリアを支援する「キャリア開発の自己申告制度」なども充実を図っています。



再雇用制度

定年退職者の知識や経験を活用するため、「定年退職者再雇用制度」を導入しています。再雇用期間は65歳までとなっており、現在、年間789名が制度を利用して働いています。

障がい者雇用

YKKグループでは障がい者雇用に努め、2010年度は1.95%と法定雇用率をクリアしています。また、印刷事業の特例子会社であるYKK六甲(株)では、徹底したバリアフリーを設計の基本コンセプトに全ての段差の解消とゆとりあるスペースを確保するとともに、聴覚障害者用警報やトイレ・シャワー室内のナースコールの設置など、重い障がいのある方の就労支援を進めています。



YKK六甲(株)



仕事と家庭の両立支援

YKKグループでは子を持つ社員が子育てをしながら、仕事においても能力を発揮し、長期的なキャリア形成ができるように支援しています。

育児休業は、最長、子の2歳の誕生日まで利用することができ、「育児休業奨励金制度」の導入により男性の取得も促進しています。

育児休業復帰後も、子が小学校に入学するまで利用できる、短時間勤務や時差勤務、看護休暇などの制度があり、年間270名ほどの社員が利用しています。継続的に制度・環境づくりに取り組んでおり、従業員のニーズに応え、短時間勤務や時差勤務を小学校低学年の長期休暇中にも利用できるようにするなど拡充を進めています。

リスクマネジメントに基づいた安全衛生

職場に潜在する危険性または有害性を再認識した上でリスクの除去・低減を図る、リスクアセスメントを実施しています。YKKグループでは、訓練や研修などの安全教育と、職場環境の改善を通して、国内外グループ各社の従業員の安全意識向上に努めています。

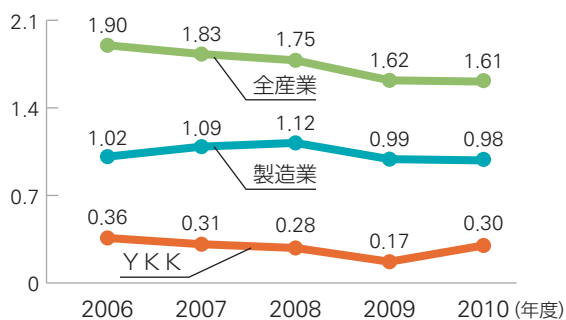
黒部事業所：総合防災訓練

黒部事業所では毎年地域公開型の総合防災訓練を実施しています。2010年度は、黒部市消防署協力のもと、行政ならびに地域の方々にも参加いただき、震度6強の地震発生を想定した訓練（被災者確認・救助、通報・連絡、油漏洩などの対応）を行いました。



10月20日に開催された総合防災訓練

■ YKKグループ労働災害統計（休業度数率）



※全産業（総合工事業を除く）、製造業の度数率：労働災害統計（厚生労働省）より引用

休業度数率：労働災害発生の頻度を表す指標
 $\frac{\text{労働災害による休業被災者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$

海外での取り組み

●ベトナム社：安全衛生訓練

ベトナム社では環境・安全についての意識向上を図るため、定期的に研修会を実施しています。2010年8月の研修会では、全従業員の85%にあたる435名が参加し、マスクの使い方などの確認を行いました。



新入社員向け研修



マスク使用法訓練



危険予知訓練（KYT）、小グループ品質管理活動（QCC）、ヒヤリ・ハット活動推進のための社内表彰を実施（YSW社）



従業員を対象とした救急訓練（トルコ社）



消火訓練活動（インドネシア社）

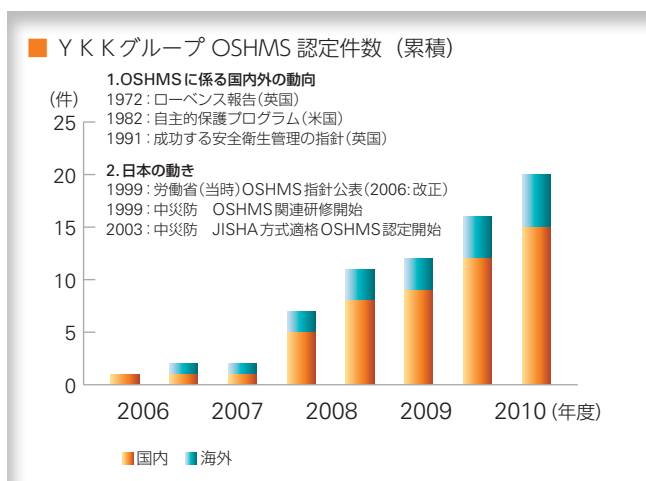
職場の安全と従業員の健康を追求

YKKグループでは国内外すべての拠点において、従業員が安心して働ける職場環境の実現を目指しています。全員参加型の多彩なプログラムにより、安全の追求と健康の保持・増進に取り組んでいます。

OSHMSの導入

YKKグループ全体の労働災害件数は「長期的には減少してきているが、横ばいの傾向から脱しきれていない」、「無災害職場といえども、まだまだ労働災害の危険性が内在している」など、潜在的危険性を低減させるための継続的努力が必要なことから、YKKグループでは2003年からOSHMSを導入し、認定取得の拡大を図っています。

※OSHMS(Occupational Safety and Health Management System)：労働安全衛生マネジメントシステム



世界各地の安全環境整備

米国テーブクラフト社では、労働安全マネジメントシステムOHSAS 18001に基づく統合労働安全衛生マネジメントシステムを導入しています。

重機操作の安全研修では、フォークリフトのリフレッシュ研修(英国社)、ベアリング技術トレーニング(パキスタン社)、クレーン・フォークリフト・圧力容器オペレーター訓練(大連社)など、YKKグループは、オペレーターが安全な作業を行えるよう、定期的な搬送機器の操作技能向上研修を実施し、従業員の安全意識啓発を図っています。



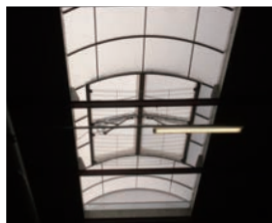
染色部門のボビン移動車改善(ポルトガル社)



はさみホルダーの配布(マレーシア社)

● フランス社の改善活動

フランス社では、チェックシートに基づく機械装置の安全チェックを行っています。自動機械は年1回、手動機械は年2回行い、お客様の工場へのレンタル機械についてもチェックを行っています。構内での5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)パトロールの実施に加え、リスクアセスメントに基づく災害リスク低減活動で、火災排煙装置を設置しました。



火災排煙装置

健康管理

YKKグループでは各国の衛生事情に合わせた保健活動を行っています。熱帯地域では伝染病予防対策の広報活動や健康診断、新興国ではスポーツ・体操などの健康増進プログラムなど、地域の实情に合わせた対策を実施しています。

●YKK黒部健康管理センター：健康障害1次予防の推進

企業における健康管理のあり方は健康障害を治療することではなく、健康障害を生じさせないように予防することが目的です。

YKK黒部健康管理センターでは、1次予防(健康教育や保健指導など健康障害のリスクを減らしてその発生を防止する)、2次予防(健康診断などにより健康障害を早期発見し対応を行う)、3次予防(リハビリテーションなど健康障害の治療後の社会復帰)の活動に取り組み、その中でも特に1次予防を推進しています。

	1次予防	2次予防	3次予防
身体	・健康づくり (禁煙/運動/栄養・ メタボ・肩こり・腰痛/ AED) ・特定保健指導	・定期健康診断 (胃/大腸/婦人科等) ・二次検診	・慢性疾患管理
精神	・メンタル教育 (上位者 & 本人)	・職場の人間関係 ストレス	・休職・復職支援

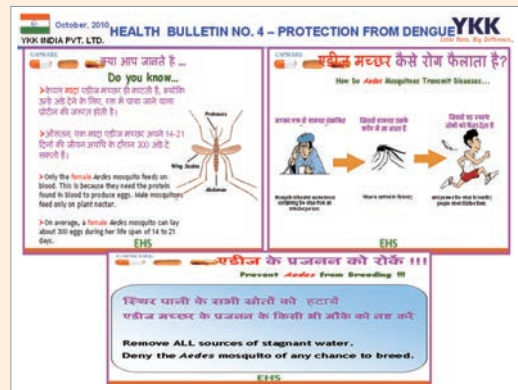


YKK黒部健康管理センター

海外での取り組み

●インド社：「月刊健康だより」

インド社では、健康に関する情報や救急訓練日程などがわかる「月刊健康だより」を2010年8月より発行しています。社員食堂やクリニック、社内ショップでの掲示に加え、メールマガジンとしても発行しています。



デング熱を媒介する蚊について注意喚起

●上海社：上海マラソン大会への参加

2010年12月5日開催の上海国際マラソンに、YKKが協賛しました。大会には、全体で約2万3千人が参加し、YKKグループから139人が参加しました。



チームTシャツを着用して参加

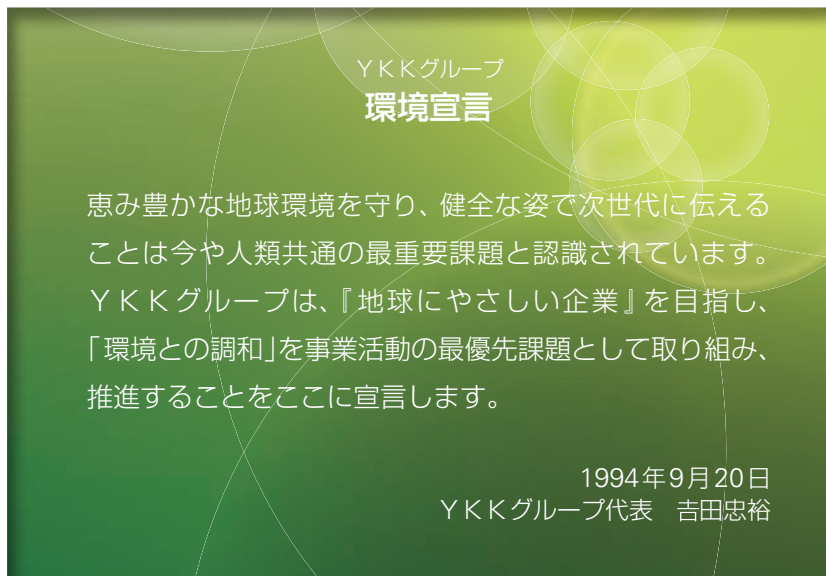
●タイ社：工場での体操



始業前に体操を実施

環境経営：地球にやさしい企業を目指して

1994年9月制定の「YKKグループ環境憲章」に基づき、YKKグループは低炭素・資源循環・自然共生型社会の実現に寄与する環境政策を、事業活動のすべての分野で継続的に推進する環境経営に取り組んでいます。



「YKKグループ環境憲章」の全文は下記ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/charter.html>

●環境経営4つの約束

約束1 エコプロダクツ・サービスの開発と提供

YKKグループは、商品を通して持続可能な社会づくりに貢献します。

約束3 グローバル環境経営システムの運用と活用

YKKグループは、世界のあらゆる地域で「環境との調和」を最優先とした環境マネジメント活動を続けます。

約束2 環境負荷低減経営の更なる徹底

YKKグループは、事業活動における環境負荷の低減を徹底して進めます。

約束4 環境コミュニケーションの推進

YKKグループは、環境政策を進める上でお客様との「対話」が最も重要であると考え行動します。

YKKグループ環境政策推進体制

YKKグループでは、「YKKグループ環境政策推進委員会」を、グループ経営における重要政策委員会に位置づけています。「YKKグループ環境政策推進連絡会」は、環境政策推進委員会で策定したグループ方針・政策を、各専門部会・事業部門との協働により執行・推進します。

環境コミュニケーション、表彰、認定

2010年度、上海社では環境広報を発行しました。APアメリカ社では、「ThermaShade™(サーモシェード)」システム庇(ひさし)が米国業界誌『Architectural products』マガジンで「No.1 環境製品」として選ばれました。

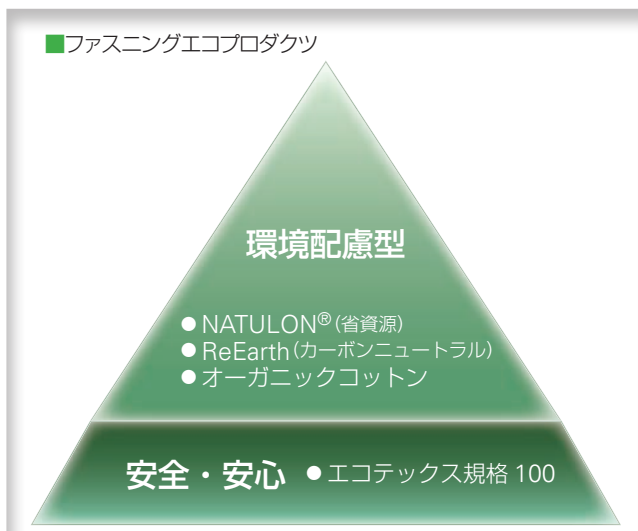
深圳社では深圳市節水型企业として認定、上海社も節水型企业と環境友好型企業の認定を取得しました。

エコプロダクツ：人と環境にやさしい商品をお届けします

YKKグループは、商品を通して持続可能な社会づくりに貢献します。

ファスニング事業

ファスニング事業では、生態系、安全・安心、資源、3R(リデュース、リユース、リサイクル)、長期使用、多様なライフスタイル、積極的な情報開示について、配慮した商品をエコプロダクツと定義し、商品開発を進めています。



エコテックス規格 100:

繊維の全加工段階での原料、半製品、最終製品に適用される、世界的に認知度の高い有害物質検査のための試験・認証システム。

米国消費者製品安全性改善法 (CPSIA: Consumer Products Safety Improvement Act) の鉛含有規制、欧州連合法 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) に含まれるニッケル規制やアゾ染料規制など、法律により禁止・規制された化学物質、および健康に害があることが知られている化学物質を対象とする。

YKKの主なファスニング製品は、エコテックス規格の中でも一番厳しいクラス I の認証を主要製造拠点にて取得しています。

NATULON®はp.16も併せてご覧ください。

●パタゴニア社とのパートナーシップ

2006年11月より米国アウトドア用品メーカー、パタゴニア社とのパートナーシップのもと、環境配慮商品を開発しています。2007年4月にYKK U.S.A.社 R&Dアナハイム分室を開設し商品開発に着手しました。2008年3月にはパタゴニアスタッフが黒部事業所を訪問、同年10月にはパタゴニア公式ウェブサイト「フットプリントクロニクル」にYKKが紹介されました。供給全商品のNATULON®への置き換えは、2011年に完了する予定です。

建材事業

YKKグループの建材事業を担うYKK AP(株)は、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード(高層建築物外装)」などさまざまな建築用プロダクツを通して、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

現在、温室効果ガス削減や、節電対策という社会的使命のため、住宅の省エネ化が求められています。窓は住宅の中でも熱の流出入する割合が最も大きく、窓の断熱化や遮熱化によってエネルギー効率のよい住宅づくりに貢献します。

●日本の窓の性能向上と快適な暮らしの実現に貢献

独自の新技术により洗練されたプロポーショナルと、優れた省エネ性能を実現した、新しい樹脂窓「APW330」、アルミ樹脂複合窓「APW310」。APW300シリーズは、これまで業界で一般的だったガラスとサッシ別々の提供から、「窓」として責任を持ってお届けし、性能と品質を保証します。生活者にとってわかりやすい窓の性能表示や価格、施工体制、また業界初の10年保証やシリアルナンバーによるアフターサービス管理など、日本の窓の性能向上と快適な暮らしの実現に貢献していきます。



地球温暖化防止：省エネ投資によるCO₂排出量の削減
 更なるCO₂排出の削減に向け、国内外工場の高効率設備の導入、
 工程改善、自然エネルギー利用促進と、環境マネジメントシ
 ステムによる省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。

CO₂排出量第三者検証

より正確なCO₂排出量を把握するために、2009年度(300拠点)および2010年度(293拠点)のCO₂排出量について第三者検証を受けました。国内全拠点共通のルールでCO₂排出量を算出し、報告書を作成。JQAによる書類・現地審査を経て「環境情報審査適合証明書」の発行となりました。今回の検証は数値の検証だけでなく、排出源ごと、燃料種ごと、事業種別ごとのCO₂排出量を把握できるため、今後のCO₂削減計画の施策立案につなげていきます。



環境情報審査適合証明書

※JQA：一般財団法人日本品質保証機構

YKKグループの温室効果ガス(GHG)算定ルール

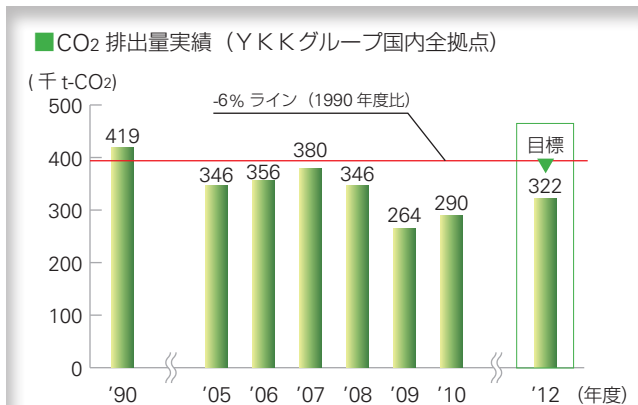
算定対象：YKK(株)／YKK AP(株)／関係会社の工場・営業拠点・厚生施設などを含む国内全拠点
 活動種別：電力、A重油、灯油、軽油、ガソリン、LPG、都市ガス、冷水・温水、工業プロセス、その他(廃油)
 活動量：モニタリングポイントでの活動種ごとの使用量

ただし、使用量が把握できないAP営業所においては会計データより使用量を換算

※ルールの詳細は、<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2011/ecology/ecology03.html>を参照ください。

CO₂排出量削減実績

国内YKKグループのCO₂排出量を2012年度までに1990年度比で23%削減とする目標に対して、2010年度は30%削減と目標を大きくクリアしました。これは、省エネ設備投資による効果もありますが、2009年度のリーマンショックの影響の余韻も否めません。今回第三者検証を受けたことで、排出源ごと・燃料種ごとの要因追求が可能となったことから、今後は効率良い省エネ投資を行い、2012年度の目標達成を目指します。

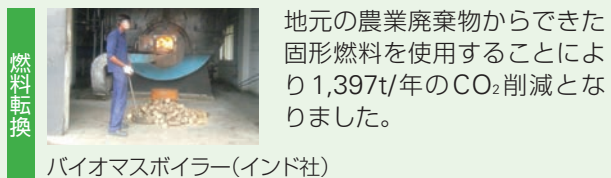


※過去の把握できない排出量は、2010年度のデータを使用しました。

●省エネ事例



2010年度は各拠点で高効率型の照明へ更新することにより国内グループ全体では530t/年のCO₂削減となりました。



社員の活動

一人ひとりが身近にできる活動を考え実践しています。

●イタリア社の事例

イタリア社では自転車通勤とカーシェアリングによるエコ通勤を実施し、CO₂排出の削減に取り組んでいます。



生物多様性：地域の生態系を守る活動

YKKグループは地域の生態系に配慮した生物多様性に取り組んでいます。世界中の拠点で植樹を行うYKK Group Tree Planting Dayや、黒部川扇状地の生態系を再現・保存する活動を行っています。

🌲 YKK Group Tree Planting Day 🌲



USA社(Anaheim)



アルゼンチン社



深川社



ベトナム社



フランス社

国内の生物多様性の取り組み

●吉田川の保護

黒部事業所の敷地内を流れる吉田川をさらにきれいな川にするために、YKKは1990年以降、低BOD対策を進めてきました。現在の吉田川は、県により遊びの場、自然体験・学習の場として「水辺の楽校」が整備され、子どもたちや住民の憩いの場となっています。YKKでは2001年より毎年吉田川の水生生物調査を行い、川のきれいさを評価しています。2010年の調査では北陸・東北地方で絶滅が危惧されているカンキョウカジカの生息を初めて確認しました。



水生生物調査



カンキョウカジカ

●黒部事業所周辺の塩水化調査

地下水くみ上げによる近隣地域の井戸への影響調査のひとつとして、黒部事業所周辺の塩水化調査を実施しています。2010年度の調査でも、塩水化された井戸の確認はありませんでした。



※塩水化：海水が入り込み、地下水の塩素イオン濃度が200mg/Lを超えること

●YKK AP(株)九州事業所「緑化優良工場等経済産業大臣賞」受賞

工場緑化を積極的に推進し工場内外の環境整備に顕著な功績のあった工場・事業所として、YKK AP(株)九州事業所が「緑化優良工場等経済産業大臣表彰」を2010年9月に受賞しました。

当事業所は、「公園の中の工場」をコンセプトに掲げ、敷地内の緑化活動のみならず、周辺地域の「環境教育」、「地域の緑化推進」など、地域に根ざした活動が高く評価されました。



YKK AP(株)九州事業所

環境債務：試算を行うことで将来の適正な処理に努めます

YKKグループでは2009年度より環境債務の試算を行っています。フロン含有機器、高濃度PCB含有機器、低濃度PCB含有機器、石綿、土壌の処理・処分費用を対象としています。

フロン対策

現在使用中のフロン含有機器（約4,000台）にはフロン回収・破壊法への該当設備であることを示すシールを貼るとともに、台帳で管理を行い確実に法に則った処理が行える体制を構築しています。

推定処理費用：約1億円

PCB(ポリ塩化ビフェニル)対策

PCB含有機器は、2016年度までの適正な処理が義務付けられています。YKKグループでは高濃度PCB含有機器の処理を2008年12月より開始し、2011年3月末現在で440台の処理を実施しました。一方、低濃度PCB含有機器は適切に保管を行うため、全国に10カ所の保管庫を定め集中管理を行っています。最大の保管地である富山県黒部地区では2011年3月末現在で262台を保管しています。今後も適正な保管・管理を実施しながら、早期処理に向けて取り組んでまいります。

現在までの処理費用：約2.5億円

残りの推定処理費用：約1.7億円

※高濃度PCB含有機器処理費用のみ

アスベスト対策

国内全拠点において、アスベスト3種（クロシドライト、アモサイト、クリソタイル）の含有調査を実施した結果、複数の拠点において含有が確認されました。これらのアスベストはすべて除去・封じ込み・囲い込みのいずれかで飛散防止対策を実施し、社員の安全確保に努めてまいりました。

またアクチノライト、トレモライト、アンソフィライトの3種類は、順次含有調査を行っています。この再調査において、現時点で新たな含有は確認されておりません。

推定処理費用：約2.8億円

土壌汚染

YKKグループでは、土壌保全は地域環境保全および土地資産価値の観点から、経営リスクマネジメントにおいて重要なものと位置づけ、自主的な土壌調査を国内所有地（全272拠点）で行いました。調査結果より、環境汚染を引き起こすなど、直ちに問題となる所有地はないことが確認されました。ただ、このうち37拠点は、汚染リスクの可能性あることから、機会を捉え、再確認することとしています。海外拠点における土壌調査については、国内でのリスク管理手法を活用し、継続して取り組んでいきます。

現時点での調査、対策費：2.6億円

●荒俣最終処分場解体・更地化工事

YKK(株)では工場内で発生する建築廃棄物の最終処分を目的として、1988年に安定型最終処分場である荒俣最終処分場を富山県黒部市荒俣地区に設置しました。この処分場は建築廃棄物のリサイクルが可能になったことから、1992年に埋立を停止しました。その後も、処分場の管理を行っていましたが、埋立廃棄物がリサイクル可能なことから、処分場の解体および更地化工事を実施することとなり

ました。工事は2007年1月より開始し、2010年10月に更地化後の土壌調査の結果、汚染が確認されなかったことをもって工事を完了しました。なお、工事で発生した土砂は、国交省の海岸堤防工事や国道バイパス工事に提供させていただきました。

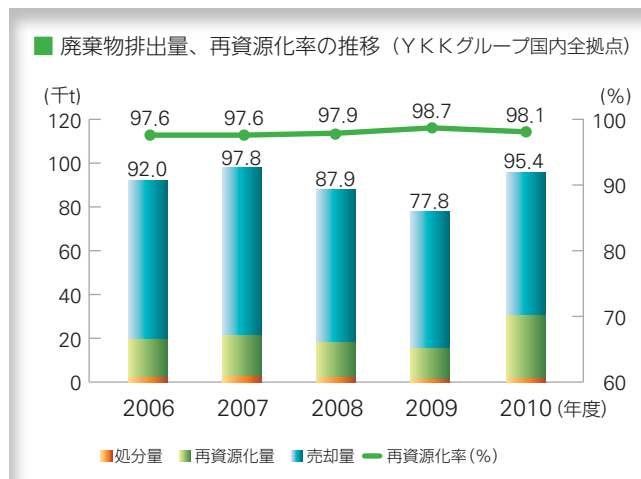
工費：5億9千万円

廃棄物排出量：111,232トン

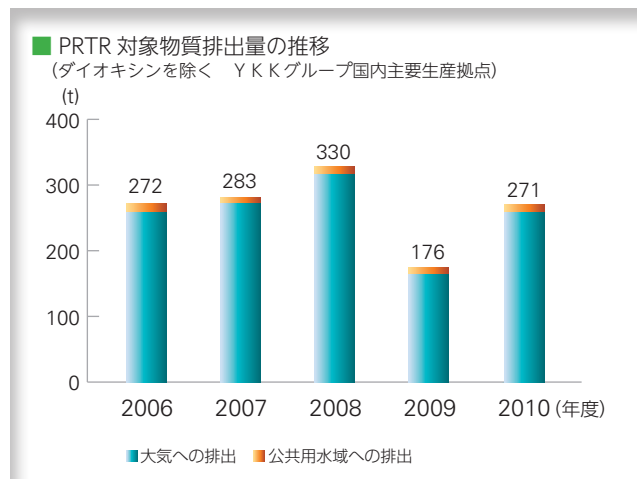
再資源化率：97.88%



資源循環：世界でゼロ・エミッション達成を推進
 廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指すとともに、工業用水の循環利用、雨水の有効利用などを促進し、環境負荷の最小化に努めます。



化学物質管理：事業の安全性を向上
 原材料の一括管理と出荷時の厳密な検査を行うことで、化学物質を適切に管理・把握することにより、製造と商品の両面から安全性を高めています。



※2010年度は対象物質が354種から462種に増えたことと生産増により、前年よりも排出量が増加しました。

海外での取り組み



染色・メッキ廃水の再利用による水の使用量削減 (インド社)



塗装工程の専用紙の再利用による紙の使用量削減 (タイ社)



産業廃棄物を適正処理委託したことによるCO2削減の証明書 (ドイツ社)

CO₂ ZERTIFIKAT :

ドイツ最大の産業廃棄物管理会社のひとつであるSITAドイツ社が始めたCO₂-Scan証明書制度。リサイクルされる廃棄物量からCO₂排出削減量を換算し、認証します。

グループ環境経営監査

環境コンプライアンス・ガバナンスを確認し、環境経営の質の向上を目指します。

環境経営監査はグループの環境管理における最高権威である環境政策推進委員会が実施するもので、結果は取締役会に報告されます。

この目的はYKKグループ環境方針・政策の確実な執行、ならびにグループ全域での環境コンプライアンスを含む環境管理の向上のために、事業の環境経営システムの実施状況を確認・評価し、不足点を改善することと、確認・評価を通じた助言・支援により、事業の環境経営を向上させることにあります。

2010年度は国内3カ所、海外5カ所で実施し、国の法律の違いにより、化学物質管理においてレベルが不統一



環境監査風景 (インドネシア社)

となっていました。環境関連法の違反、環境経営やコンプライアンスが機能しなくなる恐れがあるなどの重大な指摘事項はありませんでした。

YKK精神「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することに

よって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

経営理念「更なる CORPORATE VALUE を求めて」



YKKは、更なる **CORPORATE VALUE** (企業価値) を求めて、7つの分野に新たな **QUALITY** (質) を追求します。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

YKKグループは、その企業活動の中で、「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という『善の巡環』の精神を基本としております。この精神のもと、経営の使命・方向・主張を表現する経営理念「更なる CORPORATE VALUE (企業価値) を求めて」において、一貫して公正であることをあらゆる経営活動の基盤としております。当社グループは、こうした考えに沿って、より一層の企業価値の向上を図ることを目的としたコーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでおります。当社のコーポレート・ガバナンスは、経営方針などの重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、ならびに、監査機関としての監査役会という機関制度を基本として、執行役員制度により、事業・業務執行を推進する体制を基本的な考え方としております。

コンプライアンス

YKKグループでは、世界の国／地域において、一貫して「公正」であることを経営活動の基盤としてきました。YKKグループが真の国際企業となるため、2009年3月に、「YKKグループ行動指針 (YKK GROUP CODE OF BUSINESS CONDUCT)」を制定しました。「YKKグループ行動指針」は、①YKKグループとして、企業／社員が必ず実行しなくては

ならない行動、②全世界のYKKグループの社員が共通認識をもてるもの という2点を基本として策定されています (原文：英語)。

コンプライアンス体制としては、コンプライアンス担当取締役を任命し、YKKグループのコンプライアンス体制の整備を図ります。コンプライアンス担当取締役はコンプライアンス体制の整備・遵守の状況などにつき、取締役・監査役に報告を行います。取締役は弁護士などによるコンプライアンス研修を定期的に受講し、取締役の職務遂行において法令を遵守すべき旨の誓約書を会社に提出しています。

コンプライアンス担当執行役員のもと、コンプライアンス推進グループを設置し、コンプライアンス社外アドバイザーと連携して、YKKグループのコンプライアンス体制の整備を図っています。具体的には、従業員に対する定期的な研修会の実施による意識改革への取り組み、報告および相談体制の整備、懲戒委員会の設置および運営、モニタリング機能の整備を行います。2010年3月、「YKKグループ行動指針」を遵守するための具体的な行動例を掲載した「YKKグループコンプライアンスブック」を、日本国内全社員を対象に配布しました。

また、法令違反、社内規則違反などの発生の抑止と通報者の保護を目的として、YKKグループ内部通報制度を2006年1月から設置しています。



YKKグループの経営体制は、中核となるファスニング事業と建材事業、そして両事業の一貫生産を支える工機によるグローバル事業経営と、世界6極による地域経営を基本としています。

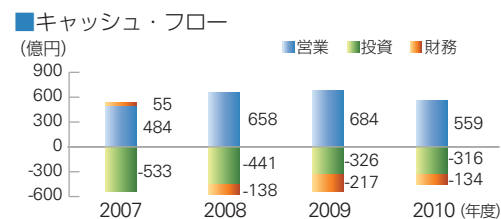
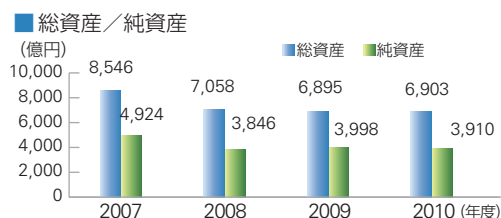
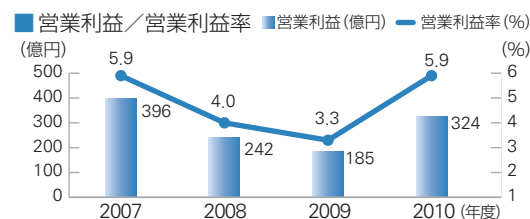
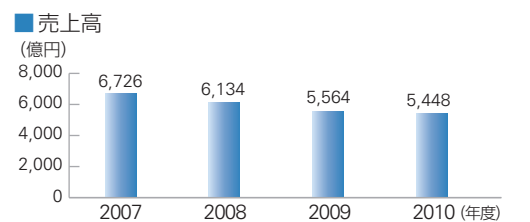
【YKK株式会社】

創業 1934(昭和9)年1月1日
 資本金 119億9,240万500円(2011年3月末現在)
 代表取締役会長CEO 吉田 忠裕
 代表取締役社長 猿丸 雅之
 本社 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1
 TEL 03-3864-2000
 本社移転先 〒101-8642 東京都千代田区外神田1-18-3
 秋葉原ダイビル(9月より)
 黒部事業所 〒938-8601 富山県黒部市吉田200
 TEL 0765-54-8000

【YKKグループ】

事業内容 ファスニング・建材・ファスニング加工機械
 および建材加工機械などの製造・販売
 グループ会社 世界71カ国・地域111社
 日本国内21社 海外90社
 主な子会社 YKK AP(株)、YKKファスニングプロダクツ
 販売(株)、YKK不動産(株)、YKK U.S.A. 社、YKKアル
 ミニウム・オーストラリア社、YKKコーポレー
 ション・オブ・アメリカ
 連結従業員 39,000名(国内17,000名 海外22,000名)
 (2010年12月末日現在)

2010年度連結主要財務情報



セグメント情報 (事業別)

